

第55回技能五輪全国大会結果報告

栃木県で51名(配管職種)の青年配管技能者が熱戦を展開!!

天海佳大選手(栃木)が金賞・厚生労働大臣賞を獲得

第55回技能五輪全国大会(主催:厚生労働省・中央職業能力開発協会、栃木県、後援:国土交通省、経済産業省他、協力:全管連他)は、11月24日から11月27日までの4日間にわたって、宇都宮市を中心に開催されました。



競技の様子



公開水圧審査の様子

現役高校生5名、女性2名が出場

この大会は、青年技能者の技能レベルを競うことにより、青年技能者に努力目標を与えるとともに、技能尊重気運の醸成を図ることを目的とし、技能検定2級レベルの実技で実施される都道府県の予選で優秀な成績を収めて選抜された全42職種・1,337名の選手が競技に臨みました。

配管職種は、栃木県宇都宮市のマロニエプラザを会場に、全国から51名の精鋭が競技に臨み、現役高校生5名、また女性も2名が参加しました。

また、競技会場には、参考課題の実物作品を展示したことで課題の内容が分かり、来場者も熱心に見学していました。

6時間40分の競技時間 課題への取り組みは選手各様

11月24日(金)に選手による競技場所の抽選、工具展開等が行われ、翌25日(土)

に競技が実施されました。各選手は、午前8時30分より午後4時45分まで、標準時間6時間40分、打切時間7時間の持ち時間で別記(11頁)の競技課題図と取り組みました。

競技課題は、競技の内容がわかるように約2ヶ月前に「参考課題」が公表され、さらに変更されたものが「当日公表課題」としてはじめて選手に公表されず。配管競技は、3種類の管、①金属管では配管用炭素鋼鋼管(白)、②非鉄金属管では配管用銅管(M管)、③非金属管では給水・排水管として塩化ビニル管(VP、VU)管を用いて、給水・給湯・排水配管を課題図の通り加工するものです。当日公表課題が競技開始直前に配布されるのが大きな特徴で、選手の緊張もより高まったようです。注意事項などを聞いたのち、各自の競技ブースで待機して8時30分の競技開始のホイッスルとともに当日配布の課題図を見つめて曲げ



(左から) 和田栃木県連会長、中川副会長、
網田競技主査、大熊部長、鹿野委員長

加工などの原寸図を作成し始めました。その後、作業パネルに示された「基準墨」を元に支持金具を取り付ける選手や銅管の加工を始める選手、銅管の加工を始めるなど配管の前加工に専念し取付けは全て後回しにする選手など「作業手順」は各人各様でそれぞれ個性があります。

緊張高まる公開水圧審査を経て順位が確定

競技終了後は、選手立会いのもと競技委員による公開水圧審査が行われました。各選手は、自分が作り上げた作品の前で待機して順番に審査を受けましたが、各選手の顔からは緊張感が窺えました。水圧審査が徐々に進み、漏水がなくなうまく仕上がった選手だけでなく、惜しくも漏水があった選手にも会場から温かい拍手が上がりました。

その後行われた測定審査で精度等を測り、主催者による成績会議において順位が確定し、11月27日(月)の閉会式において、天海佳大選手（栃木県（株）関電工 北関東・北信越 営業本部栃木支社）が金賞・厚生労働大臣賞に輝きました。

全管連会員組合が運営に協力

主催者からの要請に基づき、本会より網田健志氏（東京都・連）が競技主査、松本技術副部長が競技委員として課題作

成、競技実施、採点審査等を行いました。また、競技運営について栃木県連の役職員各位にもご協力を頂きました。

なお、本会技術部の中川副会長、大熊部長、鹿野委員長が視察して選手を激励しました。

次回の大会は、来年秋に沖縄県下で開催される予定です。



優勝した
天海佳大選手

入賞者一覧（敬称略）

順位	都道府県名	選手氏名	所属先
金賞	栃木県	天海佳大	(株)関電工 北関東・北信越 営業本部 栃木支社
	東京都	吉田一勝	西原工事(株)
銀賞	茨城県	関谷 淳	(株)関電工 東関東営業本部 茨城支社
	新潟県	岡部雄大	※(株)千代田設備
銅賞	沖縄県	屋宜宣好	※三栄工業(株)
	東京都	花木龍真	西原工事(株)
	山口県	三澤亮太	(株)桐田商会
敢闘賞	茨城県	諸澤明良	茨城県立産業技術短期大学校併設 水戸産業技術専門学院
	茨城県	鈴木廉也	(株)関電工東関東営業本部茨城支社
	栃木県	田中幸司	※(株)田中工業
	群馬県	小野澤佑真	※(株)ヤマト
	茨城県	野内瞳生	茨城県立産業技術短期大学校併設 水戸産業技術専門学院
	栃木県	碓 尚也	※(株)田中工業
	岩手県	菅原 楓	岩手県立産業技術短期大学校水沢校
	岩手県	下村信人	岩手県立産業技術短期大学校水沢校

※ 印は、本会会員企業

